

## 特集：建築研究開発コンソーシアム 創立20周年記念講演会・懇親会

建築研究開発コンソーシアムは創立20周年記念事業として、2023年2月8日に東京都千代田区の学士会館で『創立20周年記念講演会』を開催しました。講演会は会場74名、オンライン79名の参加があり、講演会に引き続き、懇親会を同会場で開催し、70名の参加がありました。

以下、講演会での澤地孝男会長のご挨拶と国土交通省住宅局塩見英之局長のご挨拶、並びに懇親会での国土交通省住宅局住宅生産課山下英和課長をはじめ、ご来賓の方々等のご挨拶を掲載いたします。また、当記念事業として作成した『20周年記念誌』完成に寄せた伊藤大輔編集部会長の編集後記と共に、完成報告を掲載いたします。

### 主催者挨拶

建築研究開発コンソーシアム  
澤地 孝男 会長



建築研究開発コンソーシアムは、2002年7月に産官学の連携と多様な業種の参加を得た研究開発の枠組みの構築などを旨として設立され、昨年で20年の節目となる年を迎えました。この20年間に活動にご協力をいただきました会員の皆様、関係諸団体の方々、また、国土交通省の方々には重ねて御礼を申し上げます。

現在、本コンソーシアムは建設、ハウスメーカー、設備、建材、エネルギー、設計、情報関連等の企業の方、大学等の研究開発機関や公益法人等が参加する組織となっており、まさに多様な方の集まりとなっています。また、研究会は、これまで構造、材料、環境、設備、防災といった様々なテーマで、200を超える研究の場が形成され、将来的な課題の検討の機会や、異分野異業種でのつながりができております。2022年度は、これまでで最多となります32の研究会が活動されるなど、その幅が広がってきております。近年では、研究会以外にも、研究人材の育成、新たな研究テーマの発掘のためのイベント、情報共有や発信などの交流推

進など幅を広げて取り組んでおります。今後も建築、住宅分野には防災、省エネなども含め、さまざまな政策的、あるいは社会的課題が生じていくでしょう。そうした中で、時代に対応した研究開発を行うことができるよう、引き続き研究開発のプラットフォームの提供の役割を担っていきたくと考えておりますので、皆様方の一層のお力添えをお願いしたいと思っております。

本日20周年を記念しまして、南雲先生、藤本先生、二人の方にご講演いただくことといたしました。お二人のご講演も参考としながら、今後のコンソーシアムの活動の一助としたいと考えております。最後になりましたが、建築研究開発コンソーシアムの益々の発展への祈念と、ご参加いただきました皆様方に感謝をいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。



### 建築研究開発コンソーシアム 創立20周年記念講演会

主催：建築研究開発コンソーシアム  
後援：国土交通省、国立研究開発法人建築研究所

日時 2023年2月8日（水）14:30~17:30

#### プログラム

主催者挨拶 会長 澤地 孝男  
来賓挨拶 国土交通省 住宅局長 塩見 英之 氏  
第一部講演：「市民の幸福感を高めるスマートシティの思想」  
講師：南雲 岳彦 氏  
一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 専務理事

休憩

第二部講演：「ものづくりとしての建築産業への期待」  
講師：藤本 隆宏 氏  
早稲田大学大学院教授 東京大学名誉教授  
一般社団法人ものづくり改善ネットワーク 代表理事

閉会挨拶 運営委員会委員長 福山 洋

### 市民の幸福感を高めるスマートシティの思想

南雲 岳彦氏

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート  
専務理事



誰もが幸福になれる日本型スマートシティについて、これを実現するのに必要とされる社会の仕組みや技術、建築産業が果たすべき役割と期待について講演いただきます。

### ものづくりとしての建築産業への期待

藤本 隆宏氏

早稲田大学大学院教授 東京大学名誉教授  
一般社団法人ものづくり改善ネットワーク 代表理事



「良い設計の良い流れ」という広義のものづくり論の観点から、建築産業の設計思想、能力構築、開發生産組織の特徴、製造業やサービス業との知識共有の可能性等を考えます。

来賓ご挨拶

国土交通省 住宅局  
塩見 英之 局長



本日は、「建築研究開発コンソーシアム 創立20周年記念講演会」にお招きに預かり、大変ありがとうございます。多くの諸先輩方がおられる中で大変恐縮ですが、ひとこと、ご挨拶を申し上げます。

建築分野の技術開発は、土木分野と異なり、官の領域で進められている様々な研究も非常に大事なものが多くですが、圧倒的に民間の建築が公共建築よりもウエイトが大きいこと、あるいは重要さも大きいということもあり、民の領域における研究開発が非常に重要だと認識をしています。また、その業種も専門分化がされており、非常に多岐にわたっております。アカデミアの世界を拝見しても、同じように専門分化が進み、それぞれにおいて大きな発展を遂げられていると思います。このことを言い代えてみると、建築分野の「知」というものは、非常に多くの分野、そして異なる業種に分散をして存在をしているということであり、それだけに官と民、産官学、それぞれの研究者の皆様方には、特に努めてお互いの連携を図ることを意識していただくことが求められるのではないかと思います。時にはお互いに刺激しあい、時には問題意識を共有し協力しながら、社会的な諸課題のより良い解決を図り、研究活動の更なる質的な向上活発化を図ることが期待をされていると思います。貴コンソーシアムは、そのための土俵を提供してこられました。平成14年の設立以来、多くの分野で、高い連携実績を積み重ねてこられ、研究開発、そして人材育成に貴コンソーシアムが果たしてこられた役割は大変大きく、今日の建築技術があるのも、貴コンソーシアムに集ってこられた多くの歴代の諸先輩方、そして本日この会場やリモートでご出席をされておられる多くの熱意ある研究者の皆様方の活動があればこそと、心から敬意を表します。そして複雑化が進んでいる建築分野のさまざまな課題を解決し、社会に貢献をしていただきながら、将来にわたり建築技術を承継し、発展を続けていくことが求められている中にお

いて、貴コンソーシアムが20年にわたって蓄積をされてこられた知識、技術、ノウハウを大いにこれからも活用していただくことが必要不可欠であると思います。

住宅建築行政については、カーボンニュートラル対応、耐震化や火災対策などの安全対策、BIMの活用による建築生産の効率化といった建設DXの推進など、様々な技術的な課題が山積をしております。また、これから増加を続けていく空き家への問題にも解決策を見出していかなければいけないと思います。将来世代へと引き継いでいくにふさわしい良質な住宅建築ストックを形成していくことは、今の世代を生きる私たちの責務であります。

高い性能の住宅への新築・建替え、性能の向上を図るリフォーム、そしてこれに空き家の除却や活用を加えた三つを政策の柱として、バランスよく総合的に進めていく必要があると思っております。

これらの様々な政策を技術的な側面から支えていただけるのは、貴コンソーシアムの皆様方、そして参加されておられる各社各機関の皆様方しかおられないと思います。今後とも我が国の建築業界の大いなる発展と、そして国民の皆様方の生活の向上に向けて、どうか力を尽くしていただけますように心からお願いを申し上げます。

結びになりますが、コロナ禍が続く中で、本日の素晴らしい講演会を開催していただけることにお礼を申し上げ、建築研究開発コンソーシアムが次の20年に向かい、さらに発展をして行かれますことを心より祈念致しまして、国土交通省を代表してのご挨拶とさせていただきます。



来賓ご挨拶

国土交通省 住宅局 住宅生産課  
山下 英和 課長



建築研究開発コンソーシアムが創立20周年を迎えられ、本日、記念講演会及び懇親会が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。また、本日ご臨席の皆様方には、日頃より建築・住宅行政の推進にあたり、多大なるご支援・ご協力を賜っておりますことを改めて感謝申し上げます。

建築・住宅技術に関する研究開発は、安心・安全で質の高い生活の実現や良好な環境の保全・創出など大変重要な社会的役割を担っています。貴コンソーシアムは、平成14年の創立

以来、建築・住宅技術に関する研究開発において、産官学・異業種の連携による研究開発のプラットフォームとして、多様な研究機関や企業などが幅広く参加し、協調・連携しながら多くの研究開発を進められてきました。そして、社会ニーズに対応した研究会も設置され、産官学が連携して共同研究を進め、業界全体の技術力の向上に取り組んでこられました。また、研究開発人材や緊急研究開発テーマを育てることに注力され、近年は「研究開発人材育成プログラム」や「若手技術者交流会」を実施するなど、研究開発に関する人材育成にも注力されています。

これまでの建築・住宅技術に関する研究開発や人材育成におきまして、貴コンソーシアムが果たしてこられた役割は極めて大きく、これまでの数多くの取り組みに対して、深い敬意と感謝を表します。

現在の住宅・建築分野が置かれている状況を見渡しますと、実に様々な課題がございます。地球温暖化対策として、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みを進める必要があり、また、温暖化対策の一環として、中高層建築物をはじめとした住宅・建築物での木材利用の一層の拡大も重要です。近年、災害が激甚化・頻発化している中で、安全性の確保は引き続き重要な課題であり、IT活用等の新技術の実装や、デジタル化を通じた生産性の向上にも取り組んでいかなくてはなりません。こうした様々な課題に対応するとともに、住宅・建築物の質を高め、より一層魅力的なものにする

ためには、建築・住宅技術に関する研究開発を推進して、その成果を活かして住宅・建築物の整備を進めることが大変重要だと考えています。

貴コンソーシアムにおかれまして、これまでの20年間に蓄積された技術・知識やノウハウを活かし、今後とも建築・住宅技術に関する研究開発人材育成を通じて、我が国の建築・住宅業界を牽引され、国民生活の向上に貢献されますよう心よりお願いを申し上げます。貴コンソーシアムの益々のご発展と本日ご臨席の皆様方のご健勝を祈念し、挨拶とさせていただきます。

## メッセージ1

一般財団法人 日本建築センター  
和泉 洋人 顧問



建築研究開発コンソーシアムが20周年を迎え、盛大な懇親会が開催され嬉しく思います。20年前の当時、このコンソーシアムを作る問題意識が四点ありました。一点目は、中堅ゼネコンの技術研究所を閉鎖する動きが相当あり、その後の中堅ゼネコンの技術が落ちるのではないかと。二点目は、大手ゼネコンは立派な研究所を持ち研究開発を行っていますが、同じ様なことをバラバラにやっていて、これも一緒にやったらよいのではないかと。三点目は、建設会社、住宅メーカーに加えて設備メーカー、素材メーカー、こういった広範な方々が一致団結して研究することがあってもよいのではないかと。四点目はそういった活動を通して、国の建築基準をはじめとする諸制度に対する様々な改革の提言をする機能が果たされた方がよいのではないかと。こういう思いで作った訳です。そうした意味で言うと、最近でこそオープンイノベーションプラットフォームという言葉が定着していますが、このコンソーシアムは、先取りしたような「場」だったのかなと思います。現在でも、300を超える企業が集まって活発な活動をしており、そうした目的が会員の皆様方に理解され、活動が活発化しています。

世の中はいろいろ変わってきていて、最新の話題ではGXとかDX、少し前の話題では少子高齢化など、こういった分野でも建築の果たす役割が極めて大きい訳です。

最近の変わり種は安全保障関連で、今後、防衛費として大きな予算が組まれるようになり、広義の防衛関連の施設整備がこれからどんどん拡充されていくことが想定されます。日本は戦後、軍事関連の研究をしないというのが、大学側の主な意見でしたが、今度はデュアルユースといった中から新しい技術が出てきて、それをまた民間に還元され、いろいろな貢献をしていく新しい動きもあります。

このオープンプラットフォームたる建築研究開発コンソーシアムは、ウイングを広げて、大いなる成果を上げたいと思います。会員みなさまの今後のご活躍とご健勝を祈念いたします。おめでとうございます。

## メッセージ2

一般財団法人 住宅・建築SDGs推進センター  
村上 周三 理事長



建築研究開発コンソーシアムは異業種連携の組織ということで、このことを非常に大事にしています。私自身の異業種連携の経験についてお話しします。長く健康維持増進住宅の研究をしてきました。スタートしたのは2007年、もう15年前のことです。住宅の断熱向上は大変大きな課題でしたが、当時は断熱をお勧めしても、コストパフォーマンスが悪いからと協力してくれませんでした。その際、断熱向上は健康にもいいからやりましょうということも申し上げても、なかなか賛同してもらえませんでした。メディアの方たちからは、自分たちの建築関連の仕事を増やしたいから断熱向上を進めているのだらうという批判を受けるほどでした。7~8年前に国に予算を付けていただき、全国的に断熱改修が健康に与える効果を調べることになりました。そのためには医学との連携が不可欠ということで、全国の医学部の先生と建築の先生で100人近くの委員会を組織して、オールジャパンの体制でスタートし、その後多大な成果を出しました。その成果を医学関係の国際誌に出すと、大変高い評価を得ました。それを市民の方に持って行くと、お医者さんがそういうならそうでしょうと言い、断熱の重要性に賛同してくれました。建築関係者が断熱の効用を主張しても利益相反と思われるような状況はなくなりました。これは、建築学と医学の連携のたまものです。異業種連携がいかに大事かということです。

長年異業種連携の取組は色々やってきましたが、連携する分野の専門が離れているほどその成果が大きいというのが、私の経験です。皆さんも是非、このコンソーシアムの活動において異業種連携を一層進めてください。SDGsやESG、社会科学を含め、広い視野を持って異業種連携を進めていただき、益々この会を発展させていただきたいと思っております。





作尾徹也副会長による乾杯



村上陸太副会長代理による中締

## 20周年記念誌 完成報告

### 20周年記念誌の完成によせて

20周年記念誌編集部長  
伊藤 大輔



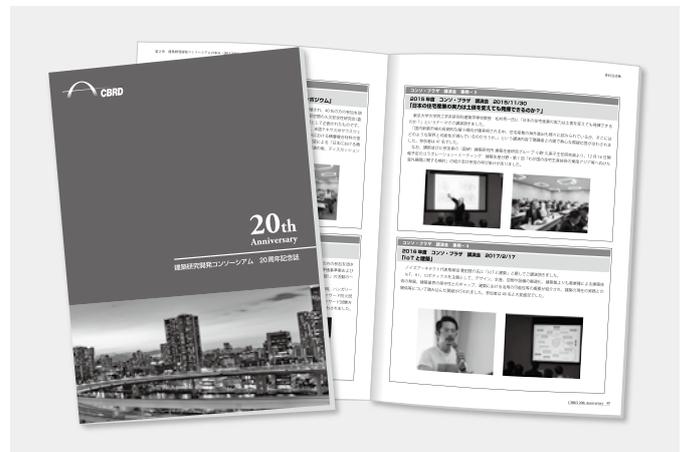
20周年記念誌は、2013年度～2022年度までの10年間を対象とし、建築研究開発コンソーシアムの活動記録を集約し再構成したものです。今後のコンソーシアム活動の方向性を検討する基礎資料となることを期待し、活動を体系的に記録することに主眼を置いています。2022年1月度の運営委員会で記念誌作成の提案が承認され、同3月に運営委員会の下に編集部会が編成・設置され、2023年6月の発行を目指して編集作業が開始されました。

第1章では、コンソーシアムと関係が深い方からの寄稿文を掲載し、第3章では、創立20周年記念講演の概要を収録しています。第2章にはコンソーシアムの活動概要が記されていますが、特に「3. 委員会活動」は、4つの委員会それぞれの役割がその特徴とともに詳しく記載されており、10年間の活動を俯瞰するという面からも重要な記録となっています。

2002年の創立から10年間の環境変化も大きなものがありました。この10年間の変化は経済的な環境変化にとどまらず、産業構造の制約条件が激変しました。2012年度にコンソーシアム会長より10年後を見据えた活動計画の策定の指示があり、「中期ビジョン-2013」が制定されました。その後2019年の見直しによる改定を経て今日に至りますが、次の10年の活動の方向性を検討すべき時期にきてっていると思

われます。コンソーシアムの多様な活動と具体的な事例や参加者の体験などが記されたこの記念誌が、これからの10年を考える上での参考となり、また活躍が期待される研究者や技術者がコンソーシアムを理解するための一助となれば幸いです。

最後に、このような編集作業に不慣れな小職を支えていただいた編集部会の各委員と事務局をはじめ、寄稿文を寄せていただいた方々、研究開発事例を提供いただき、あるいはコンソーシアムの活動への参加した体験を寄せていただいた会員の皆様に感謝を申し上げます。



20周年記念誌

※20周年記念誌電子版をホームページに掲載する予定です。次号以降でご紹介いたします。

### CBRD News Letter 49号

発行日：2023年6月30日  
編集：建築研究開発コンソーシアム 交流推進委員会  
発行：建築研究開発コンソーシアム 事務局

### CBRD 建築研究開発コンソーシアム

〒104-6204 東京都中央区晴海1-8-12 トリトンスクエア Z棟 4階  
TEL：03-6219-7127 FAX：03-5560-8022  
E-mail：conso@conso.jp(代表) Home Page：https://www.conso.jp/